

非稼働病床の現況について ( 豊能 二次医療圏)

※過去1年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去1年間病床が一度も稼働していない有床診療所(非稼働病床という)

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画
			病床数	非稼働になった時期	計画の詳細				
1	医療法人互恵会池田回生病院	池田市	37床	平成20年度	現状は働病床も満床にならない状態が続いている。医師や看護師不足については、職員知人を通じて継続して募集している。	再稼働する。	翌々年度中	令和7年1月より理事長が交代し、新理事長の下、常勤医師は内科3名、外科2名、整形外科1名、皮膚科1名に加え、更に定期非常勤医は、内科7名、整形外科3名、皮膚科2名、耳鼻科1名、眼科2名の医師が在籍しています。以上の人員で患者数増加を図っております。今後更に、内科、整形外科それぞれ常勤1名ずつ募集し、整形外科病棟を立ち上げ、近々の再稼働に向け努力いたします。	
2	大阪脳神経外科病院	豊中市	2床	令和5年度	物理的に使用しにくい配置であったため	病床の一部を削減し、再稼働する。	今年度中	9/1付にて2床廃止(削減)	
3	独立行政法人国立病院機構 大阪刀根山医療センター	豊中市	15床	令和2年度	昨年度報告時の非稼働病床15床のうち、1床については、令和7年9月1日よりHCU病床として稼働開始、また10床については、府の「病床適正化支援事業」において、令和7年9月30日付削減しており(A-6に記載)。令和7年10月時点での非稼働病床は4床となった。現時点での病院運営に必要な看護師数等は、稼働病床数に基づいて配置している状況であり、非稼働病床については、今後の受入患者数と看護師数により検討していく。	病床の一部を削減し、再稼働する。	未定	A-6に記載のとおり、昨年度報告以降、令和7年9月1日より1床稼働、9月30日付10床削減により、令和7年10月時点での非稼働病床は4床である。運用病床として稼働可能となる時期は、今後の受入患者数と看護師数により検討することになっており、残る病床の稼働については、現時点では未定。	
4	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	吹田市	25床	令和1年度	稼働できていない理由は3点。 1. 財務 非稼働病床すべてを稼働させるには人件費の確保が必要であり、採用計画は中長期的な計画となる。近年の人件費上昇や物価高騰が診療報酬で十分に補われておらず、長期投資が可能な安定的な収益が見込めるのか診療報酬改定の動向を見極める必要がある。 2. 人材 非稼働病床を持つ病棟はすべて高度専門治療室であるため、相応の技術を習得した看護師等配置が必要となる。 3. 患者 コロナ禍を契機に患者の受療動向が変化しており、当院医療圏の人口動態や各病院の病床計画等を長期的視点で勘案する必要がある。	再稼働する。	未定	令和7年10月1日付で施設基準上の病床数においてICUの非稼働病床を2床増床して届出を行っており、今後、システム改修を経て稼働する。中長期的には非稼働病床はすべて稼働させる予定であるが、非稼働病床25床を同時期にすべて稼働させるには人材が不足している。その採用計画は患者数と診療報酬改定に依存しており、短期計画が策定しづらい事業環境にあるため稼働計画が未定となっている。	
5	大阪大学医学部附属病院	吹田市	10床	令和2年度	健常者の治療病床のため	その他		昨年度と同様、治療病床のため運用の変更はありません。	
6	大阪市立弘済院附属病院	吹田市	47床	令和5年度	施設が老朽化し、入院患者が減少したため、2病棟有しているが1病棟にて運用している。病院再編計画を策定済。	病棟を削減する又は無床診療所とする。	翌年度中	病院再編計画に基づき、令和9年3月末に閉院予定。	
7	医療法人 平心会 OCRO Mクリニック	吹田市	10床	令和5年度	治療に特化した医療機関であり、入院試験実施時のみ稼働するため	その他		治療に特化した医療機関のため入院試験実施時のみ稼働しますが、治療受託のために稼働に関わらず最大病床数である19床を確保する必要があるため。	